

(参考資料)

農林水産大臣賞・農村振興局長賞 表彰団体等の概要

農林水産大臣賞

1. 生産基盤整備部門

○枝野地区

宮城県角田市 角田隈東部土地改良区

経営体育成基盤整備事業



○転作状況（大豆）



○転作状況（大豆）

- ・農地集積に当たっては、農地保有合理化事業を活用し、一度、角田市農業振興公社へ全ほ場を貸付けた後に営農者に再配分を行う「一括利用権設定(村ぐるみ手法)」を実施。これによりほ場の面的集積が進み大型機械を利用した効率的な大豆、麦等の栽培が可能となった。
- ・地区内の余剰労働力を活用し、女性等を雇用した直売所「たんぼぼ」を開設。



○直売所「たんぼぼ」

○北中村地区

千葉県いすみ市 夷隅中部土地改良区

県営担い手育成基盤整備事業



○食用なばなの栽培



○ブルーベリー栽培研修

- ・事業を契機に設立した営農組合に地区内の農地の過半を集積。
- ・酪農家と連携し、飼料作物を栽培する一方、堆肥の提供による土づくりを行っている。
- ・「ちばエコ農業産地」の指定を受け、食用なばなの栽培を実施。なばな摘みを開催して地区内外に宣伝し、地域の活性化と産地化に取り組んでいる。
- ・新規導入作物のブルーベリー栽培も実施し、観光摘み取り農園を開園するなど、借金に頼らない自立した経営を目指している。



○なばな

2. 農村振興整備部門

〇いいたて農地・水・環境保全向上対策推進連絡協議会

福島県飯舘村 いいたて中部地区 中山間地域総合整備事業



〇堆肥センター



〇有機栽培による野菜作り

- ・事業を契機に家畜糞尿等を有効利用した堆肥センターを設立し、堆肥を利用した有機栽培が進み、現在では村内あげて「有機循環型農業」の展開を進めており、村の約 5 割の農地で実施。
- ・特栽米の栽培・開発・加工販売にも積極的に取組み、過疎・高齢化の進む中山間地域の活性化手法の模範となっている。

農村振興局長賞

1. 生産基盤整備部門

〇輪之内本戸地区

岐阜県安八郡輪之内町 輪之内本戸土地改良組合 経営体育成基盤整備事業



〇ブロッコリー栽培



〇無人ヘリによる防除

- ・事業を契機に農業生産法人を設立し、地区の大部分の集積を図り、「水稻+麦」、「水稻+野菜等」の複合経営を目指し、生産性、収益性の高い農業を展開。
- ・減農薬と化学肥料を 30%削減した「ぎふクリーン農業」の登録を行い、環境への配慮、食の安全・安心の確保に努力。
- ・新規導入作物として「ブロッコリー」「さつまいも」を導入。
- ・輪中堤にあじさいを植樹し、「あじさいまつり」を開催するなど、地域の活性化に取り組んでいる。

○遷喬地区

京都府福知山市 団体営基盤整備促進事業



○ほ場の大区画化



○小豆の収穫状況

- ・事業を契機に集落営農組織が法人化され、地区の大部分を集積。大区画化により大型機械を導入し、生産コスト、時間短縮を図っている。
- ・法人組織による1団地1営農の方針により、集団化やブロックローテーションなど計画的な作付けを実施。転作作物として、小豆を導入。
- ・「職業体験」・「農家体験」として地元小中学生の生徒を受け入れ、農業の魅力を伝えている。

○飯盛南部地区

長崎県諫早市 飯盛南部土地改良区 県営畑地帯総合整備事業



○畑かん施設による散水



○馬鈴薯の収穫

- ・区画整理・畑地かんがい施設の整備により、効率的で安定的な農業経営を実現。
- ・馬鈴薯は県内随一の「メイクイン」産地であり、「諫早ポテト元気くん」としてブランドを確立。
- ・整備後の余剰労働力により収益性の高い「しょうが」の栽培面積が増加。

2. 農村振興整備部門

○鹿追町

北海道 とかち高原の里地区 中山間地域総合整備事業



○堆肥化、バイオガスプラント



○堆肥を散布したほ場（小麦）

- ・事業により整備した堆肥化、バイオガスプラントにより家畜糞尿を有機資源としてほ場に還元することにより地域資源循環システムを確立。
- ・堆肥化の過程で発生するメタンガスや温水の有効利用を推進するためハウス等へのエネルギーとして検討を開始。